

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた場所でゆったりとした生活を理念とし、実践につなげている。	今までの理念を踏まえ、職員で話し合いの機会を持ち、「入居者の皆様がその個人の持っている能力を最大限に発揮できるように支援する」を新しい理念として定めた。職員同士、朝・夕のミーティング時に確認し、実践に繋げようとしている。玄関にも大きく掲げており、来訪者にもわかり易くなっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に地域の方とつながりが出来ているが、イベントなど声掛けするが出席が少ない。	地元区への区費を支払っており、回覧板も回ってくる。入居者が散歩の時に近所の方と話し込んだり、野菜や果物の差し入れなども頂いている。地区のお祭りの際に獅子舞が訪れたり、フラダンスや和太鼓などのボランティアとも交流している。ヘルパー養成講座や大きな施設の実習生の受け入れも行っており、入居者が地域の一員として関係が途絶えないように努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に、理解・支援の方法が足りない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの状況報告をし、取り組み状況等について、交流が進むよう話し合っているが、向上に活かし足りない。	諸々の事情で年度始めの開催が難しく、年4回の実施となっている。家族代表、民生委員、介護相談員、地域包括支援センター職員、市担当者、ホーム職員で構成されている。内容はホームの活動や利用状況の報告、意見交換となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	連絡を密に取り、情報交換を取り合っている。	市の窓口に向きいろいろと相談している。市派遣の介護相談員2名が3ヶ月に1回訪れている。市召集の「保健・医療・福祉事例検討会」が毎月1回開催されており、ホームからも1名が出席し情報収集している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は日中鍵をかけず、自由に入出入りできるようにしている。 見守りの困難な時など鈴など付けてのケアを行なっている。	身体拘束排除のためのマニュアルがあり、職員も正しく理解している。対象となるような事例は全くない。玄関の施錠も日中は行っていない。外出傾向の方には職員が同行し、ホームの駐車場の端まで往復し納得していただいている。近所に地区の民生委員の方がおり、離設などの方が一の場合に協力をいただけるようになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者を家族との間の危険から、関係機関と協力し、速やかに対応している。		

斑尾の森グループホームふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族の話し合いの中で、制度により後見人と利用者さんの日常生活支援を行った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族、利用者の不安や疑問を個々の立場になって説明し、納得していただいた上で手続きをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者さん家族の要望を引き出し、メンバーにも伝え、前向きに支援している。	殆どの入居者が意志の表出ができる。各入居者のホームでのイベントの様子を写真で綴った「ふるさと通信」を作成し、家族に手渡したり請求書と一緒に送っている。大々的に家族会と銘打つての集まりはないがホームの行事等のご案内はしており2~3家族が参加している。家族等からはホームへの来訪時に要望を聞いている。遠方に家族がいる場合には月末に電話で連絡をとっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見、提案を日々聞き、働く意欲・質の確保に取り組んでいる。	朝、夕のミーティングで話しをしている。意見や要望についてはその都度聞くようにしており、取り入れることができる場合には即運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に、経験年数・能力などを評価し、給与水準を上げたり、責任のある仕事を任せたり等、やりがいをもって働くことができるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の業務の中で、実践を通して技術を学んでもらうほか、法人外で行われている研修に参加をしてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービス担当者会議等の場で、交流する機会を作り、意見の交換、ネットワークづくりに努めている。		

斑尾の森グループホームふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の困っている事、不安な事に耳を傾け安心していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話をしっかり聴き、受け止め理解しながら関係づくりをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている支援を速やかに見極め、他のサービス利用の対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人を知ろうとする姿勢の中で、良い関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人、場所に出かけたり、来ていただいたりの場を支援している。	ホームの近くに住む知人より市内でもやや遠方の知り合いの方が訪れている。入居前によく行っていたなじみの場所や商店などへ家族と同行する入居者もいる。入居者からの申し出により家族等との電話をつなぐ場合もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、支援に努めている。		

斑尾の森グループホームふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移り住む利用者の情報を詳しく説明、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員で話し合い、取り組んでいる。	歯磨きの順番待ちの時に「空いたら言っただけ!」と入居者からの声がかかるなど、その場の思いや意向を伝えることができ、職員も快く応じている。一人ひとりの表情や仕草から各入居者の気持ちを推し量ることができている。計画作成担当者と入居者が1対1で話すことが多く、入居者からの色々な訴えや要望を聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から生活歴を聞き、職員は把握し、日々の生活支援をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は一人一人の現状を把握し、日々の生活に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族に状況の変化を説明したり、話し合いの中でアイデアを出し合っている。	家族の来訪時や電話等で様子を知らせ要望等を聞いている。モニタリングは1ヶ月ごとに、見直しは3ヶ月に1回行っている。状態に変化がある場合には主治医等とも相談し、随時変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、職員間で情報を共有しながら、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その場、その時のニーズに応じ、臨機応変に支援している。		

斑尾の森グループホームふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を協働し、楽しむことができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療を受けられるよう、支援している。	入居前のかかりつけ医の継続は家族の協力を得て行っている。主治医を協力医へ変更する場合は同意をいただいている。協力医による住診が月1回行われており、万が一の場合は24時間連絡できるようになっている。緊急時には即救急車を呼ぶようになっている、連絡網も整備されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医等に相談しながら、健康管理や医療支援につなげる支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と情報交換相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と話し合い、十分な説明をしながら方針を共有し支援している。	開設から今までの9年間でホームでの直接の看取りは全くない。ホームが対応しうる最大限の支援方法について色々模索をしているが現状では限りがあり、医師とも相談しつつ特別養護老人ホーム等への移行措置をとることが多い。最期までホームでの暮らしの継続を希望する家族も多い。	万が一の場合には家族等の心の準備もあることから、重度化した場合や終末期のあり方についてホームの方針を明確に説明し、可能な限り本人や家族等の意向に沿えるような体制の整備を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	身体状態の急変などの対応はできているが、応急手当などの訓練を行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行いたい、地域との協力体制が満足でない。	年2回、夜間あるいは昼間を想定した避難訓練、通報訓練、消火訓練を行っている。今年度11月には自動火災報知器が設置された。延べ㎡数が少ないのでスプリンクラーの設置義務はない。備蓄については食料品や介護用品を何時も多めに注文し余裕を持たせている。	避難訓練で明らかになった課題について色々対策を講じていただきたい。火災だけでなく土砂災害等への備えも万全にしたい、地元地区からの協力も得られるように働きかけも期待したい。

斑尾の森グループホームふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重した中で、対応に努めているが、中には対応に難しい方もいる。	人格の尊重やプライバシーの確保についてのマニュアルが整備されている。プライバシー保護などの研修には職員が交替で出席し共有化を図っている。職員の言動が目にした場合には管理者から直接注意することもある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の決める希望や願いを引き出すよう努めているが、意志表示のできない場合の思いや、好みなど把握していけるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人に合ったペースで、1日が過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向、本人の希望に合わせた支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事をし、片付けをしている。	殆どの入居者が自力で食べることができる。食の形態も食材によってトロミをつけることがあるが稀である。入居者も盛り付けや配膳、後片付けを職員とともにやっている。朝、昼、夕ともに調理に長じた職員が工夫をこらしている。家族とともに外食に出かける方もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量、水分量を一人一人の状態に応じ支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の力を引き出しながら、一人一人の手入れの支援をしている。		

斑尾の森グループホームふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつの使用を減らし、一人一人の自立に向けた支援をしている。	排泄パターンを把握しており、時間でトイレへ誘導している。入居前にリハビリパンツを使用していた方も布パンツに変えて自立に向けて支援している。夜間にポータブルトイレを使用している方が数名いるが、介助が必要な方は少ない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すため、予防・対策に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の意向を第一にし、支援している。	少なくとも週2回は入浴している。夏場はシャワーで対応することもある。自力で入浴できる方は少なく、殆どの方が一部介助を必要としている。職員の体力的に一人では難しい場合は二人で介助することもある。家族と一緒に近くの温泉に出かける方もいる。現在、入浴を拒む方はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣、活動状況に応じ支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れのないための取組をしている。本人の状態、変化等医療関係者と情報提供し、支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	潜在している記憶や、できる力を最大限に活かし、自分らしく暮らせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力を得ながら、戸外に出られるよう、支援している。	ふだんはホーム周辺を散歩している。広い庭に出してお茶のみやひなたぼっこをし外気に当たることもある。季節が良くなると、長時間となると難しいが車椅子の方も一緒に近くの広場にお弁当持参で出かけている。行事外出については計画しているが年々難しくなっている。	

斑尾の森グループホームふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族との話し合いの中で支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙のやり取りを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人らしく過ごせるよう、工夫を配慮している。	食事兼リビングはフローリングで家庭で普通に使用する食卓テーブルと椅子が数箇所に分けて置かれている。春を感じさせる桜と蝶の塗り絵プラス貼り絵の大作が壁面に飾られていた。北側の窓からは近所のボランティアの方が剪定してくれた桃の木を見ることができ、つぼみが膨らみつつあった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごせるよう、支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を活かし、その人らしく過ごせるよう、配慮している。	増築部分の居室はフローリングで、改修部分の居室は畳となっている。いずれの居室も間取りが違い、床の間や神棚、高天井など古くからの家屋の趣きが残されている。入居者は思いのままにベッドや布団を持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所の表示をし、自立した生活ができるよう支援している。		